



令和 4 年 5 月 20 日

大学病院にメラノーマ治療センターとゲノム医療センターを新設

広島大学病院は病院内に「メラノーマ治療センター」「ゲノム医療センター」を設置、診療科を横断する本格的な診療活動を始めています。

○メラノーマ治療センター

メラノーマ(悪性黒色腫)は、皮膚の色素をつくるメラノサイトが悪性化したもので、日本人では足の裏や爪に生じやすいがんです。その他の部位の皮膚、眼(結膜、脈絡膜)、口腔粘膜、鼻粘膜、泌尿生殖器などさまざまな臓器にも生じることがあります。このためそれぞれの施設や診療各科で個別に治療されるケースが多くなっています。

近年、メラノーマに対する抗癌剤である免疫チェックポイント阻害薬や分子標的薬の開発により、予後は飛躍的に改善していますが、まだ多くの課題が残されています。このため関係する医療従事者が診療科を超えて連携し、専門知識と臨床技量を結集して治療にあたるためにセンターを設置しました。

これによりメラノーマ診療に関わる医師、歯科医師、看護師等の育成につながることも期待されます。

○ゲノム医療センター

本院は 2019 年にがんゲノム医療拠点病院に指定され、2020 年 1 月には遺伝子診療科を設置、ゲノム医療に対する体制整備を進めてきました。2020 年に遺伝性乳がん卵巣がん症候群(HBOC)の遺伝学的検査やリスク低減手術が保険収載されるなど今後も遺伝子診断を治療に応用する事例が増えていくと予想されます。

この HBOC 以外にもさまざまな遺伝性腫瘍症候群に対して多職種チームで対応するほか、出生前診断のための体制整備、がんゲノム医療が効果を発揮しやすい小児がん拠点病院に指定されていることなどから、さらに高度で先進的ながんゲノム医療を進めるためにセンターを設置しました。

【お問い合わせ先】

大学病院広報・調査担当役 古市
TEL:082-257-5418